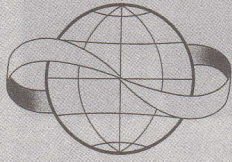


ヴェーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)



第34号
(新年号)

発行 東多摩再資源化事業協同組合
理事長 紺野武郎 編集長 吉浦高志
東京都東村山市久米川町1-16-18
Tel&Fax 042-395-9788

再生資源回収事業者に

なぜ認定制度が必要か？

明けましておめでとございます。

本年もよろしくお願い致します。

前号でも触れたが日資連認定制度について問い合わせが多かったの
で更に詳しく述べてみたい。

日本再生資源事業協同組合連合会
(日資連)は、全国の資源回収業者
三千社ほどが加盟して、各市町村
のリサイクル事業や地域公共施
設・企業事業所などの資源回収に
従事する業者の連合会である。

取扱品は主に専ら物(古紙・金属
屑・古繊維・びんカレットの四品
目)で、以前から再生資源として回
収していた物だ。廃棄物処理法で
は規制がないし許認可制度もない。
近年、すべての業界業種がゼロエ
ミッション(ゴミゼロ)精神で廃棄
物の資源化に取り組んでいて、自主
的にISO14001などの環境マネ
ージメントシステムの認可を取得
して努力している。

しかし、資源回収業者の認証や資
源物の行方そして再生された製品
を確認する受け皿が見えない。
このところ、民間許認可制度の機
能が悪用され、国民生活の安全を
根底から覆す事件が頻発している。

日資連のこの制度は、官から押付
けの規制ではなく、自主的な努力
で自らを律し、持続可能な資源循
環型社会形成に貢献することを宣
言した制度である。

東多摩再資源化事業協同組合も加
盟組合員全員が申請し、一二月に
認定された。

廃棄物マニフェイストは、廃棄物
が最後まで廃棄物として正しい処
理をしたかどうかを証明するもの
で、再利用ルートの道筋はない。
日資連の認定制度では、「日資連
発行のリサイクル化証明書」を活
用することによって再商品化され
る流れを明らかにしている。

再生資源回収業者は、動脈産業か
ら流れてきた消費物を家庭という
毛細管の部分で手際よくまとめて
選分し、肝臓や腎臓に送って高品
質の再商品化する肝腎カナメの役
割を担っている。ところが世界の
リサイクル事情を調査してみると、
再生資源の回収事業者が組織化し
て活動している国は日本以外には
存在しないようだ。

これは少資源国の島国で自給自足
をしてきた鎖国時代から培われて
きた貴重な組織といえる。
この組織が、世界一人件費の高い
国で最高品質の再生資源を最低コ
ストで生み出す力となっている。

近年、日本の古紙の品質が高く評
価されてきた。中国など輸入国は、
人件費の上昇や廃棄物による環境
汚染などで、資源物の品質に厳し
い制限をしてくれている。

事実欧米の混合回収と不十分な分
別による低品質資源がトラブって
敬遠されだした。

この傾向は益々強まるだろう。
資源物を廃棄物処理感覚で排出・
回収すれば、地域に根ざしたりサ
イクルシステムは活用されず、品
質も内外で利用され難い物ばかり
が溢れかねない。

なお、製品素材の複合化・難リサ
イクル化は、益々多用に広がって
いる。製造販売会社は、自社内の
ゼロエミッション運動は高らかに
謳い上げながら、平気で難リサイ
クル素材の製品を世に送り出し、
その後始末は自治体や市民任せに
していることが多い。

素材を明記するマークやリサイク
ル可能物の掲示は普及してきたが、
非または難リサイクル素材を明記
する勇気ある会社は皆無だ。

日資連の回収事業者の認定制度は、
資源リサイクルのルールを守り、
再資源化ルートの流れを明確にし
て、真の持続可能な資源循環社会
を築くシステム作りには必須と確
信している。

(T・K)

直言拝聴

諸事雑感

元人材コンサルタント
平成十五年度生活達人（内閣府）
法学修士（商法）
東久留米市廃棄物減量等推進審議会会長

松永正美



一、紺野理事長とのかかわり

平成十八年（2006年）の年頭にあたり、紺野理事長はじめ、東多摩再資源化事業協同組合ご一同様の益々の御隆盛と御多幸を心よりお祈り申し上げ、新年の御祝詞を申し上げます。

紺野理事長とは、平成十七年四月、東久留米市廃棄物減量等推進審議会でお知り合いさせて頂きました。再資源化業界の代表者として審議会の席上、極めて有益かつ貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。御礼申し上げます。

平成十七年十二月十五日、「ヴィーナス通信」の「直言拝聴」に原稿の執筆方、ご依頼がありました。べ切が迫っていたので、とり急ぎ当審議会その他自分の所感を些少書き留めることといたしました。

二、審議会のテーマ

「家庭ごみの有料化」及び一般廃棄物の減量方策と再利用の推進について」

このテーマについて十七年四月から同年十一月までの九ヶ月間（九回）にわたって討議をいたしました。審議会は原則公開制で、傍聴人がみえたこともありましたが、会長として、委員全員がフラン

クに、そして直言をしていただけのように、進行にあたっては気配りをしたつもりですが、行政当局や委員の皆様にも少しもお役に立っていないは大変ありがたいと思っています。そして感謝を申しあげたいと思っています。

次に委員各位のお考えに決定的な格差・相異がみられなかったために比較的收拾がスムーズにできたのではなからうかと思っております。

また審議会は各階層の委員で構成された諮問機関であります。したがって委員各位はご自分の立場を認識された良識のあるご発言であつたので、各階層の問題点が明らかとなり、このことを認識できたと思っております。

さらに、審議会運営上、全員が最初から最後まで、開始時刻、所要予定時間そして終了予定時刻を厳守いただき、毎回、審議会は大変活発で明るく楽しく共に問題点・課題を共有することができました。正にチームワークのお蔭であり、ご支援くださった行政当局の皆様と委員各位に厚く御礼申し上げます。

三、個別の問題について私の感想を申しあげます。

(一) 家庭ごみの有料化について

さきに、市長会では有料化について検討をされています。多摩地区二十六市のうち十五市が現在家庭ごみの有料化を指定袋制で実施されています。有料化は不可避の課題であります。家庭ごみの排出量は最近増加傾向にあります。

「燃やせるごみ」と「燃やせないごみ」を合わせて、平成十一年度（一九九九年）が最も少なく、以降毎年大体五〇〇トン位ずつ増加しており、有料化実施の市では特に初年度にごみが激減している実績から、増加傾向に歯止めをかける一方策として、減量化のためには有料化に取り組まざるを得ないのではないかと考えられます。人口はほぼ横ばいでありました。したがって市民の皆様に、家庭ごみの減量化にご協力をいただかなければならないのかなあと思われます。

(二) 一般廃棄物の減量方策と再利用の推進について

① 私は、かつて民間企業に在籍中、某業界で東京本部の委員会委員として、産業廃棄物の取り扱いについて討議を重ねたことがあります。とりわけ産廃の不法投棄の

回復対策いわゆる現状回復についてどうすればよいのかについて大変社会的な問題となり、困難であったことを覚えていきます。

②一般廃棄物の減量方策については、有料化も極めて有効な方策とは思いますが、根本的な持続可能な減量方策は、排出者である市民の一人ひとりが、最善の努力を日々重ねて、ごみの排出を少なくする、抑制することであり、ごみ全量の約七〇%を占める「燃やせるごみ」を徹底的に排出抑制することであり、このための方策は、十一分別(将来改善することもありうる)にしたがって「燃やせるごみ」に資源物が混入してないかをチェックしたり、生ごみは十分水切りをしているかをチェックしたりして、排出するごみを減らすことが大切である。

減量を検討するデータは、「燃やせるごみ」と「燃やせないごみ」との合算量の年次推移を比較し、市内を地域別に層別したデータを解析して減量化の管理のサイクルを推進することが優先されると思っています。

そして再利用の推進を検討するデータは、資源物の年次推移を比較し、市内を地域別に層別したデータを解析して、再利用のサイク

ルを推進することが優先されると思っています。

(三) 廃棄物処分場の作業を大切にしよう

中間処理施設の柳泉園組合及び最終処分場の日の出町二ツ塚処分場での作業実態及び発行されているレポートやパンフレットを読んでもみませんか。きつと「ごみ問題」を身近な問題として認識し、ごみを減らそう、不法投棄には注意をしようという意識改革ができるのではないのでしょうか。現場の作業を理解し、現場を大切にしようではありませんか。

(四) 行政への課題

廃棄物の減量方策と再利用の推進についても、行政当局として種々対策を実施されている。

ごみの収集処分費用をいかに低減していくか、市の財政が、一般歳入の減少によって厳しくなればなるほど歳出削減の技量が問われると思えます。法令上の制約はいろいろあるだろうと思われませんが、ごみの減量化が喫緊の優先課題と思えます。市民の一人ひとりの協力がなければこの課題の効果は期待できないと思えますので、市民に納得のできる行政施策(例えば

分別のあり方、燃やせるごみの減量方策、資源物を増量して再利用を推進し資源循環型の重要性等々)を広報誌等でPRしていただきたいと願っています。

次に行政回収(集団回収)により資源物の増量を確保できると共に回収コスト削減にも資するので、この回収方法は各地区自治会に引き続きご協力をいただき、実施継続して推進することは極めて重要だと思えます。にもかかわらず、資源物という「宝の山」を回収車の前に、抜き取っていくけしからぬことが発生しないよう、住民が注意をさせていただくように願っています。

四、基本的な考え方

ごみ問題は、自治体に共通の重要な行政課題であり、最終処分場の限られたスペースを一年でも長く活用できるように住民一人ひとりが当事者意識をもってごみの減量化にとりくむときがやってきたと思えます。そして減量の成果を持続していかねければなりません。このために「もったいない」という日本古来の思想を受け継ぎ、伝えていきたいと思えます。一九九〇年から二〇〇五年までの十五年間は、失われた、痛みの伴った十

五年間であり、その前の好景気(バブル期)であった大量消費社会から、資源循環型社会に変質せざるを得なかったのではないかと思っています。

リストラや賃下げの経営戦略をとらざるを得なかった民間企業に、採用増や賃上げ等の明るい話題がみえはじめた昨今、バブル期の昔の発想に戻ることなく、今こそ「もったいない」の考え方を基本に、審議会は、市民生活と行政運営の双方に役立つことができる会議体でありたいと願っています。関係する皆様に、感謝を申しあげ、ご支援をお願い申し上げます。

**東京都リサイクル事業協会
フォーラムが開催されます。**
(多摩とことん討論会と同時・同場所開催)
 日時：平成18年1月29日(日)
 10:00~17:00
 場所：府中市グリーンホール
 (府中市府中町1-1-1、
 京王線府中駅徒歩15分)
 このフォーラムは、市民の皆様にリサイクルの情報を提供することを目的とし、「再生資源リレートーク」というテーマで開催します。詳細は、下記へお問い合わせ下さい。
【問い合わせ先】
 東京都リサイクル事業協会
 (TEL) 03-5833-1030

新年の 抱負



理事長 紺野 武郎

新春をお慶び申し上げ、本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年は、組合の上部団体である東京都リサイクル事業協会や日資連・関資連などに関係した仕事に関わることが多く、全国を飛び回る慌ただしい一年でした。

今年も、極力地域のリサイクル事業をお手伝いできるよう、自らを処してゆきたいと思っています。

また、各市の廃棄物減量等推進審議会委員の委嘱や環境フォーラムに参加するなどして、市民や行政の皆様と話し合う機会をいただきました。

その中で、資源物の分別方法や再生資源の行方、更には再生製品の流通など、リサイクルに関する疑問や提言をお持ちの方が非常に多いのに気が付きました。

そこでこれからは、色々な団体の会合などにお邪魔して、「リサイクル現場からの出前講座」や「施設体験」等をご案内させて頂きたい願っています。

何卒お気軽にご一報頂ければ幸甚に存じます。

皆様のご多幸を心からお祈り申し上げます。



総務委員長 土井 益二郎

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は、一月十一日に官公需適格組合の資格を取得し、また、七月二二日には組合のロゴマーク（メビウスの輪）の商標登録に成功しました。

さらに、十二月には、この度日資連が設けた「再生資源回収事業者認定制度」に基づき、組合員全員が再生資源回収業者に認定されるなど、組合運営の一助となるような活動を行いました。

そこで本年は、これらの資格等を大いに活用し、組合事業のより一層の充実に貢献していきたいと思っております。



財務委員長 古川 敏雄

新年明けましておめでとうございます。

昨年は長い景気低迷から脱出の兆しが見えてきたと言われていますが中小業者にとってはまだまだ楽観できない状況です。

組合としては引き続き経費の削減、業務の合理化、省エネを推し進め民間活用の利点を発揮できるように内部充実を図る努力をいたします。



業務委員長 小畑 和夫

新年あけましておめでとうございます。

昨年を振り返って見ますと、米国のハリケーン、わが国の地震や台風など大きな自然災害が多発しました。また、幼い子供に対する凶悪な事件、マンションなどの耐震データ偽造問題などがあり、自然や人の心が末期症状に入ったのかなと思わせる一年だったよう

な気がします。組合は、地域に根ざしたリサイクルパートナーとして各市行政委託業務・集団回収・共販事業・輸出事業などの各業務を推進してまいりました。各委託業務の円滑な遂行を基本にして、行政回収の抜き取り行為に対しての早朝パトロール実施、トイレットペーパーブルーメランの販売、国内古紙の流通停滞を防ぐため輸出事業などを行ってまいりました。また、市民・排出者・行政から社会的信頼を得る事を目的とした日本再生資源連合組合の再生資源回収事業者認定制度に組合員が全員登録をし、この制度の本格的推進に協力してきました。

今年も、極力地域のリサイクル事業をお手伝いできるよう、自らを処してゆきたいと思っています。



福利厚生委員長 萩原 貞雄

二〇〇六年明けましておめでとうございます。

昨年は、兵庫県・尼崎市のJR

福知山線脱線事故（四月・死者一〇七人、負傷五四九人）など、日本の安全神話を揺るがすような大事故が起こりました。

そこで当組合は、安全講習会などを通じて従業員に対し、「今までの以上に安全な作業を心掛けて、地元自治体や市民の皆様により一層信頼される職場」を目指すよう厳しく指導して来しました。

また、従業員向けのレクリエーションや組合員の研修活動を充実させ、より良い職場環境作りや組合運営の円滑化にも努めてきました。

本年も、当組合が、昨年同様に地元自治体や市民の皆様の信頼を損なわぬようにリサイクル事業を遂行するべく、作業の安全面の徹底指導、研修活動などによる組合員のリサイクルに関する知識・技術の充実などに務めていきたいと思っております。

広報委員長 吉浦 高志



昨年度は石油を筆頭に、世界的な資源の取り合いが新聞紙上を賑わせました。

廃棄物として埋め立てられたプラスチックを掘り出し、宝物のように扱う中国人の姿をテレビで見たとときは、とても驚きました。

ペットなど、法律を作らなければ処理出来なかった物が、羽が生えたように海外に資源として行くようになりました。

今でも古繊維やカレット、電池、バッテリー、廃タイヤなど、資源ではあるが利用価値が低く、廃棄物扱いされる物が多くあります。本年度はこれらの物にも光をあてて、勉強して報告していきたいと思っております。

青年部長 土井 健一郎



新年明けましておめでとうございます。

昨年は、従来からの各市リサイクルフェアへの参加などに加え、会計セミナーの開催、東資協・大資協両青年部との交流など、組合運営の一助となるような、充実した活動を行ってきました。

本年も、昨年同様に組合事業に貢献できるような活動を行って行きたいと思っております。

中学生がリサイクルの職場を体験

小平市立第三中学校より来組

昨年十一月九日から十一日までの三日間、当組合では、小平市立第三中学校より職場体験学習の中学生を受け入れました。

参加してくれた中学生は、男子生徒が八名、女子生徒が四名の合わせて十二名。

当組合の六件の事業所で、資源リサイクル業の仕事を体験してもらいました。

中学生達は、朝九時から午後三時まで、主に資源回収車に同乗して地域の行政回収や集団回収の作業を手伝ったり、ヤード内で古紙の選別作業を行ったりしていました。また、最終日には、古紙のリサイクルについての勉強会も行いました。

中学生達は、各事業所の担当員の指導の下、慣れないながらも明るく真面目に作業を頑張っていました。

特に、今回は中学生達の中に女子生徒が加わっていたため、作業をするに当たって心配な面があり、出来るだけ軽作業をと心掛けました。

体力的にはきつい面もあったようですが、それでも回収から選

別まで積極的に仕事に取り組んでくれました。

今回の職場体験学習は、会社の一員として少し馴染んできた頃に終了という短い期間の中で、しっかりと体験をさせてあげられたかどうか心配な面もありました。

それでも、作業だけでなくヤード内の見学にも熱心であり、最後の勉強会でも積極的に質問をするなど、古紙のリサイクルについても大変興味を持ってくれたようでしたので、当組合にとっても極めて有意義で良い機会だったと思います。

今回の経験を通して、資源のリサイクルについて更に理解を深めてもらおうと同時に、仕事をすることの大変さを実感してもらえたら幸いです。



小平三中生と一緒に

『視察報告』

(紺野)

◎レンゴー(株)八潮工場

(二月一日)古紙ネット主催

板紙製造のトップメーカーであるレンゴーの八潮工場は、月産七万トと日本一の設備を有している。段ボールの中芯原紙日産九五〇トを抄紙する最先端設備の七号マシンを見学した。巨大な高速マシンは、わずか六名で操作され七・八三m幅の原紙を、一日千二百km生産するようだ。

見学前後に、工場内の説明や製紙全般の話をうかがった。原料は全量国内回収の段ボール古紙で、雑誌古紙の使用はゼロのことだった。

禁忌品によるトラブルも多く特に白板紙の場合は製品を入れる紙容器となつて直接印刷をするため、



古紙問題市民行動ネット視察
～レンゴー(株)八潮工場にて～

わずかな突起やシミ匂いなどが大きなクレームの原因となっている。プラスチックや古紙の残渣は、バイオマスボイラーの建設間近で、完全にサーマルリサイクルし発電設備も整えて、灰もセメント材に利用する。加えて水処理面でも、工場全体が環境配慮型に徹しているとの説明があった。

◎鶴見製紙(株)

(同日)古紙ネット主催

鳩ヶ谷市にある家庭紙メーカーで、狭い敷地を立体的に活用した日本でもっとも設備の過密な工場とのことだった。レンゴーとは逆に、四〇名ほどの従業員が所狭しと働いていた。

特徴は、原料古紙が市町村や企業の機密書類で、段ボール箱ごとパルパーに投入する処理方法だ。段ボールは溶解しないで残っているうちに取り除いて別処理工程に流れる仕組みとのことだった。

トレットペーパーは、フレッシュアップルプとの販売競争が厳しく、上質古紙だけの原料では太刀打ちできない。そこで機密文書の処理もかねたと言う。現在原料の三〇～四〇%が機密文書だそうだ。

工場内と配送センターはIT化され、二十四時間監視体制も整っており、近隣自治体の文書類も本工

場で溶解処理している。市街地に立地しているため環境には厳しい配慮をしていた。

◎札幌市資源リサイクル事業

同組合・学習会

(二月二三日)札幌市環境プラザ) 同組合の主催の学習会に招かれて、お話する機会を頂いた。

回収業者・古紙問屋・札幌市職員・道中央会担当者など三〇名ほどの参加者で、「今後の古紙回収事業はどうなるか？」と言う重たいテーマに挑戦することになった。

①関東地区の業界事情、②今後の古紙市況、③回収業者のこれから、④古紙問屋と回収業者の関係、などについて話し、札幌市の実情を聞かせて頂いて、今後の回収業界の方向性や目標などを、深夜まで議論し大いに勉強させて頂いた。

翌日、東副理事長さんの「旬ひがしリサイクルサービス」を見学し古紙やビン・缶の他に、廃油(てんぷら油)も回収していて、自社トラックの燃料に再利用していた。

SVODEEゼルシステムを着装すれば軽油の代わりに使用でき、排ガスもクリンとのことだった。

◎住友金属工業(株)鹿島製鉄所

(二月二日)東リ協会主催

本鉄工所は、鹿島臨工地の三万坪と言う広大な地にあり、年間

八百万トンの鉄鋼製品を生産していた。三基の高炉を持ちその二基がフル稼働している。

高炉は一旦火を入れると、二五年以上鉄鉱石を溶かし続けなければならぬ。それに付属する鉄鋼製品の加工工場もまた稼働し続ける。そのため設備に使われる無数の部品もそれに耐えるものを使用しているようだ。

連続薄板圧延工場を見学したが、厚み三〇センチで二五トンもある灼熱に燃える鉄塊が、水蒸気を巻き上げて八百mのローラー上を滑りながら薄板鋼に圧延される様は凄まじいといふ言いがたい。製品の三〇%は中国などに輸出しているとのことだった。

◎鹿島地方事務組合

「広域波崎 RDF センター」

(同日)同主催

茨城県神栖市の同センターは、市の家庭系可燃ごみをRDF化する施設だ。日産一三五トの処理能力を要し、建設費五二億円。可燃ごみは有料の指定袋で、軟質性プラスチック類も混合収集していた。日産一〇〇トのRDFは、殆ど保管することなくすぐに鹿島共同再資源化センターに運ばれる。

同センターは、鹿島臨工地の企業から出る産廃を焼却して発電す



東京リサイクル事業協会視察
～京葉港王子物流㈱～

るサーマルリサイクル施設で、RDFはその焼却施設の助燃材として使っていると言うことだった。RDF生産コストは、直接コストだけでトン当たり二万五千円かかり、トン五百円で売却していた。RDF生産時、多量の化石燃料が必要と聞いて、それを助燃材にして産廃の焼却炉で家庭系ごみも直接処理した方が環境に優しいのではと素朴な疑問を感じた。

◎京葉港王子物流㈱

(二月三日 同主催)

約四万五千坪の敷地内に八棟の倉庫群が並び、四百mのプライベートルートを備えた物流基地だ。首都圏の古紙類を王子製紙釧路工場に搬出し、釧路から紙製品を搬入する専用船が着岸していた。古紙は三千二百トン積み出し、製品は四千五百トン持ち帰るそうで毎

週一往復している。

古紙は常時一万トンほど備蓄しているヤードがあり、一ヶ月で一回転しているとのことだった。構内には古紙問屋のプレス工場もあり直接買い入れもしていた。倉庫にはニュージールランド産の材木も山積みしていた。

「リサイクル短信」

●千葉県 の十三市市長連名で

古紙業界に要望書

(千葉市・市川市・船橋市・木更津市・松戸市・野田市・柏市・流山市・我孫子市・君津市・富津市・浦安市・袖ヶ浦市)

昨年九月、関東地区の資源回収業者の連合会「関東資源回収組合連合会」と古紙問屋の組合「関東製紙原料直納商工組合」に対し、『抜き取り古紙の買取り防止について』下記の要望書が届いた。

各市が実施している資源物回収の古紙などを組織的に横取りする抜取業者に対し我々業界も、様々な対策を講じてきたが後を絶たず、両業界では協議会を作って検討をかさねていた。

本要望書を重く受けて止めて両組合は、「抜取古紙を流通ルートに乗せないこと」が不可欠と、地

元問屋が中心に対応をはじめた。抜取問題は、ごみステーションに出された資源物が誰のものか、その所有権の有無によって窃盗罪として取り締まれるかどうかが分かれる。

各自自治体が抜き取り禁止条例を制定し、資源物が市民の財産であり市の所有物であることを主張し、指定業者以外の持ち去りを禁止して頂くことがまず必要である。窃盗罪として立証できれば、それを買取った問屋もその先の製紙会社も故買の罪に問われ追究されることになる。

〔要望書の原文掲載〕

《要旨》

平成17年9月16日

関東製紙原料直納組合
理事長 栗原 正雄 様
関東資源回収組合連合会
会長 紺野 武郎 様

抜き取り古紙の買取り防止について (要望)

初秋の候、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、千葉県内の各市では資源品の回収事業を実施し、資源リサイクルを図っているところですが、近年、資源品(古紙)の抜き取り行為が多発し、その対策に苦慮しているところ

です。資源品(古紙)の抜き取り行為は、市民・資

源化業者・自治体の協力のもと築き上げてきた回収システムの崩壊を招きかねない憂慮する事態です。

このため、市民・資源化業者・自治体は、連携して「抜き取り」の根絶を図り、健全なる環境型社会の形成に向けて今後も努力していきたいと考えます。

つきましては、貴組合におかれましても本趣旨を御理解の上、「抜き取り古紙」の買取り防止について、引続き御尽力賜りますようお願いいたします。

今、関東一都六県で条例を制定した市・区は二五%ほどで、準備または検討に入った自治体も多い。資源物は価格だけを見ると安価なものだが、市民の協力・行政コスト・地元業者の雇用や設備の問題など資源物に付随する付加価値は大変な金額に相当し、それを他地域の業者に横取りされる損失は大

きい。

抜取対策は、古紙業界だけでは対応できない部分も多く、今後地域の自治体と連携を密にして市民の財産の保持に努めなければなら

読書の楽しさ、環境を考える場に エコドリーム読書選手権開催

昨年十一月6日、NPO法人「EG倶楽部」NPO法人「読書DO」主催で「エコドリーム読書選手権」が東村山市立大岱（おんた）小学校で開催された。東村山市内での開催は一昨年に続いて二回目となる。

後援に前回は東京都、東村山市教育委員会であったが今回は東久留米市が加わった。東村山市環境部、東村山警察署が協力、当組合も協賛させていただいた。

開催主旨は「名作を通して読書の楽しさと環境の大切さを理解する心を養い、読書離れの抑止と環境問題の大切さを学ぶ」ことを目標としている。

今回の課題図書は「森は生きていく」富山和子著・講談社とアニメ「千と千尋の神隠し」監督・宮崎駿。であった。

競技方法は前回と同じ方式で予選ラウンド二〇問で上位六チームと復活戦で勝ち抜いた二チームの計八チームで決勝トーナメントを行なった。



エコドリーム・読書選手権
～ハワイアンの演奏～

参加資格は前回は小学生のみであったが今回は中学生まで幅をひろげた。競技参加者は2人一組で五八組であった。

会場内には小学生の環境ポスターが数多く展示され、当組合が提供したトイレットペーパー「ブルメラン」がピラミッド型に積み上げられ、雰囲気盛り上げていた。さらにアマチュアハワイアンバンド「シルバーレイ アイランドーラス」（六人編成）による生演奏が競技開始前、途中休憩などに行なわれ、会場を心なごむものにして

いた。主催者側の滝本光成氏の挨拶に続き、大岱小4年生二人で選手宣誓が元氣よく行なわれ、競技が開始された。

予選ラウンドでは全問正解が四チーム、一問違いが四チームとハイレベルの争いであった。

優勝は南台小の4年生チーム「友情ファイターズ」が何と2年連続の栄冠に輝いた。準優勝は東村山二中のチーム、三位が野火止小、南台小の二チーム。

他にベスト8入賞、ベストネーミング賞、ベストファミリー賞、ベストドレツサー賞などの表彰が行なわれた。競技後のアンケートで課題図書を



エコドリーム・読書選手権
～表彰式～

十二回も読んだ子、課題ビデオを二十一回も観た子など競技に臨む熱心な姿勢が伝わって来る。友達同士、親子、祖父母と孫などのチームが問題の答えに額を寄せ合い考え込む微笑ましい光景は課題の記憶を競い合うだけにとどまらず、互いに助け合い、補い合う人と人とのコミュニケーションを養う良い機会ではないかと思う。前回同様、大会運営の手際の上には感心させられる。競技参加者の九五%が次ぎの大会に参加したいとアンケート回答があり、この企画が永く、ますます盛んになって欲しいと思います。（芳野）

トイレットペーパー 「ブルメラン」 (65m巻き・100個入り)

- 地元の市役所・公共施設・事業所などから収集されたミックス雑古紙 100%使用!
 - 塩素系、酸素系、苛性ソーダなど化学薬品を使わない無漂白品!
 - 東村山市・西東京市等の小中学校、公共施設、保育園などで使用され好評を得ています!
- (価格) 1ケース 2,600円、
10ケース以上1ケース 2,470円
(いずれも消費税・配達料込)
ご注文は当組合までお願いします。
TEL&FAX : 042-395-9788

リサイクルフェア 参加報告

●小平市リサイクル フェスティバル

フェスティバル

昨年九月十日(土)、小平市リサイクルフェスティバルが開催された。姉であり上司である青年部の吉浦亜矢子に誘われ、組合ブースのお手伝いとして初めて参加した。会場に入ると、多くのブースが並び、それぞれが準備に追われていた。手作りの石鹸や、綺麗なストラップを売っているブースもあれば、スタンプラリーを実施している小学生も居て、仕事を忘れてつい寄り道をしたくなる。組合のブースに着き、机の上に展示品やパネル、トイレットペーパーを並べ、準備をしてお客さんを待っていたが、まだ関係者以外人通りもまばらだった。市民の方々が通るようになってから、勇気を出して初めてトイレットペーパーの販売をした。『トイレットペーパー如何ですか?』と声をかけるのが初めはとても恥ずかしかったが、再生紙一〇〇%で無漂白・無着色なんですよと説明していると大抵の市民の方が快く買ってくたさるので、だんだん楽しくなってきた。自分達が出した古紙が、トイレット

トペーパーや違う何かに姿を変えらるという事は、漠然と分かつては出される事は少ないように思う。今回のことで、少しでも市民の皆様様にリサイクルの重要性を伝えることが出来たかなと思つた。今度はもう少し勉強をして、展示品やパネルや分別クイズの説明も出来るようになって、もっともつと市民の皆さんとふれあいたいと思つた。
(青年部 吉浦優子)



小平市リサイクルフェスティバル

●東村山市リサイクルフェア

昨年一〇月二三日(日)、東村山市リサイクルフェアが開催されました。今年から開催場所が秋水園に変更になったため、飲食ブース

も無く、昨年よりは人出が若干少ない様子でした。

今年も分別クイズ、リサイクルマーククイズとトイレットペーパー『ブーメラン』の販売を行いました。市民の皆様とふれあうことが出来ました。
(青年部 紺野)



東村山市リサイクルフェア

会計セミナーに参加して

昨年十一月より、東多摩再資協青年部に入会しました榎水野商会の水野敬一と申します。僕は、今まで、当組合の活動には、全く参加したことがありませんでした。

ところがある日、我が社の経理部長から、「組合で会計セミナーをやる事になったそうだけど、参加してみない?」と言われて、初めて組合のイベントに参加することになりました。

最初の受講の時は、緊張が隠せずどきどきしながらドアを開けると、中にいた皆さんが新人である僕に優しく声をかけてくれたので安心しました。

セミナーは、土田税理士事務所、所長である土田先生をお迎えし、計四回に分け行われました。「経理事務」「損益計算書」「キャッシュフロー」「資金繰り」と経理の基本的な部分に的を絞り、噛み砕いて説明していただきました。

貴重な時間を割いて、セミナーの講師を引き受けていただいた土田先生に失礼のないように、ひとつでも多く吸収しようと気合が入ります。

土田先生の講義は、素人の僕にも非常にわかりやすいレベルで進めていただけました。

僕が一番興味を持ったのは「資金繰り」でした。知っていると、知らないのこの程度の金額の差が出るのかと終始驚きの連続でした。改めて、知識は財産だなーと思えました。

今回のセミナーで、僕の中に残ったものは、ただ言われた数字を入力するだけだった紙が、会社の経営状態をはっきり表した紙に。二、経理部長との、専門用語を交えた意思の疎通が可能になった。

三、更なる経理に対する、知的好奇心でした。

次回もセミナーが開催される時は、必ず参加させていたかどうかと思っています。

まだまだ新人ではありますが、がんばらせていただきたいと思っていますので今後もよろしくお願ひします。

(水野敬一)

東資協青年部・東多摩再資協青年部の大阪合同研修会に参加して

去る九月二十九日(木)東資協青年部・東多摩再資協青年部合同の研修会が開催され、大阪府再生資源事業協同組合(以下大資協)の

全面的ご協力を頂き、大阪のリサイクル施設を視察しました。当日は、大資協の入江金男理事長のご子息で、ユニクル株式会社の専務取締役の入江真太郎氏と業務部の入江大輔氏が、新大阪駅まで迎えに来て下さり、また五つのリサイクル施設をご案内していただきました。

まず最初に、株式会社マルサン摂津営業所を視察しました。ここは、鉄屑や発泡スチロールなどを再資源化処理したり、産業廃棄物を中間処理してRDF(ゴミ固形燃料)を製造しているリサイクル



会計セミナー
～講義する土田士朗所長～

施設で、東海道新幹線の高架沿いにヤードを構え、また高架下に駐車場を設けていました。

次に、旭宝紙業を視察しました。ここは主に段ボール古紙を中心に扱っている古紙問屋で、閑静な住宅街の一面にヤードを設けて運営していました。

昼食を挟んで午後からは、まず、共和紙料株式会社社長田田営業所を視察しました。ここも古紙問屋ですが、午前中に視察した旭宝紙業と違って古紙全般を扱っており、大阪地区で広く展開している問屋でした。また、工場の視察後には、営業部の芳本部長より関西地区の古紙事情について説明をいただきました。

次に、北摂商事を視察しました。

ここは非鉄金属(アルミなど)を扱っている問屋で、大型トラックで運び込まれたアルミと銅の混在物などを選別処理していました。私たちが行った時は、ちょうど荷物を運び込む車両が頻繁に来ており、とても忙しそうでした。

最後に、大資協の事務局があり、入江理事長が経営されているユニクル株式会社を視察しました。ユニクル株式会社自体は、再資源化処理された廃プラスチックのプレス物などが置ける倉庫を構えているだけでしたが、会社の主な事業は、主に古紙や金属、廃プラスチック、廃蛍光管、廃乾電池、機密文書などの資源物を収集し、会社と契約しているリサイクル処理業者に運び込んで再資源化処理をし、出来上がった原料を再商品化して販売することや、飲料水のリサイクル・食品残渣(生ゴミ)の液体肥料化リサイクルといった環境に配慮した活動を行っていることなど、大変手広いものでした。

中でも驚いたのが、ユニクル株式会社の業務管理体制が非常によく整備されていることでした。ユニクル株式会社では、一日の業務を開始するに当たっての朝礼はもちろんのこと、一日の業務の終わりには必ず終礼を開いていました。

その中では、社長を含めた社員全員が集まって、現場作業から事務作業に至るまで、その日の作業内容を社員一人一人が詳細に報告したり、ケガがないかどうか確認したり、翌日の業務予定を確認したりしていました。そして、報告する際には、報告者とそれ以外の人達が必ず「お元気様です」と大きな声で挨拶をかわしていたことは、大変な驚きでした。

また、入江理事長との懇談会では、理事長に東多摩再資協の事業活動や機関紙についてお褒めのお言葉を頂き、大変光栄に思いました。



ユニクル株式会社にて

年部の活動について披露し合うなど親睦を深めて、無事大阪研修会は終了しました。

尚、今回の大阪研修会に際し、大資協の入江理事長様には、事前に視察先を設定していただいたり、また、当日には全ての視察先を車でご案内いただいたりして、大変お世話になってしまいました。最後になりましたが、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

(柿崎)

組合員紹介

株式会社 水野商会

代表取締役 水野 勇

私は、昭和二六年、新潟県南魚沼郡真人村で生まれ、昭和二九年、当地東村山市秋津町に引越して来ました。

小さな頃は、父が病気がちで、母が働いて生計を立てていました。弟が二人の三人兄弟で、母が病気の父と幼い私達を育ててくれた事を思い出します。

この様な状態でしたから、こずかいはもちろん無く、秋津駅の周辺で鉄・銅などを拾い、屑屋さんに売ってこずかいにしていたもの

です。

私が中学に進学した頃、父が資源回収の仕事を始めました。

高校進学と同時に父の仕事を手伝い、高校は定時制に決め、昼間は仕事、夜は学校という毎日を送り、この時仕事のノウハウを覚え、今の基礎が出来たと思います。

一時遊びを覚え、道を踏み外しそうな時もありましたが、両親のおかげで今日を迎えられていると感謝しています。

昭和三七年九月に父が水野商会を開業し、昭和五三年六月、有限会社水野商会を設立しました。この時父より譲り受け、私が代表取締役になりました。

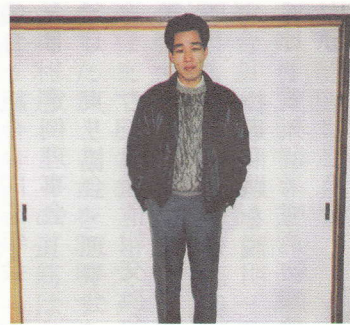
その後、新たに組織変更し、平成六年四月株式会社水野商会として、現在に至るまで無我夢中で走り続けてまいりました。

私は三〇年間代表として仕事をし続け、やつと資源に携わる者として、大切さや難しさ、又、使命を持つて働く喜び等を痛感する毎日です。

又、今後も一日一日大切に事故無く一歩一歩努力し、現場にあって組合員の皆様の一員としても責任ある、又、忠実である自分でありたいと思います。

皆様のおかげで今日あると感謝

しています。今後ますます御指導頂きながら頑張つてまいります。どうか宜しくお願い致します。



(株)水野商会・水野 勇さん

エコプロダクツ二〇〇五

昨年一二月一五〜一七日、東京ビッグサイトでエコプロダクツ二〇〇五が開催された。古紙問題市民行動ネットワーク(古紙ネット)ブース出展に、お手伝いとして参加した。

エコプロダクツ展とは、企業・団体、NGO・NPO、行政・自治体、大学・研究機関、そして一般の生活者など、様々な立場の人々がエコプロダクツや環境問題について考え、それぞれのスタイルでエコライフを実現できるよう学習できる場として開催されている。

今年第七回目で、五〇〇以上の企業・団体が出展し、環境にや

さしいプロダクツ、サービス、コンセプトなどをわかりやすく紹介していた。事業者向けの環境展と比べると、小中学生の来場者なども多数いて、より市民目線で、身近な感じがした。

古紙ネットのブースは、世界のトイレットペーパーの展示や、再生紙トイレットペーパーの利用促進、古紙分別の方法と禁忌品についての展示を行っていて、訪れた市民や事業者の方々からの古紙リサイクルについての相談や質問、そして環境分野の専門家の鋭いツッコミまで、応対に追われた。無料慶弔袋の配布という変わった事業に取り組んでいる人もいたりして、なかなか面白かった。

(紺野)



エコプロダクツ2005

疑問・疑問

日本国中が耐震設計疑惑・アスベスト被害で大混乱。その他の環境施策でも、容り法改正最終案如何に・環境省サーマルリサイクルを推進・廃プラ処理施工難行・家庭ごみの有料化の賛否激論等々難問山積。

みんな真剣に未来を案じて議論している訳だが、その方法も結論も思うように噛み合わない。先ず発生抑制と言うが、無駄な物を買わない・売らない・作らない方法はあるのか。プラスチックに代わる製品は？。それは環境負荷を低減するのか。ライフスタイルを変えた時どれだけ経済活動や個人所得が低下するのか。先入観抜きで冷静に計算して判断する方策はないのか。

行事・行動

【平成一七年九月】

- 五日：東リ協会・事業対策委
- ：青年部会議
- ：RC責任者会議
- 八日：東資協理事會
- 九日：古紙循環プロジェクト
- 一〇日：小平市リサイクル祭
- 一一日：定例理事會
- 一二日：東リ協会・理事會

- 一五日：東久留米廃棄物減量審
- 一六日：市民と議員の會

フォーラム

- 一九日：日資連理事會
- 二〇日：RC責任者會議
- 二六日：青年部會計セミナー①
- 二八日：小平廃棄物減量審視察
- ：古紙流通情報交換會
- ：東リ協会・理事會
- 二九日：古紙センター業務委
- ：青年部大阪研修會

【一〇月】

- 二日：関資連第五二回總會
- 三日：青年部會議
- 五日：古紙C利用促進委員會
- 六日：中央会多摩セミナー
- ：青年部會計セミナー②
- 七日：東資協理事會
- 一一日：定例理事會
- 一四日：青年部會計セミナー③
- 一八日：東リ協会・理事會
- ：RC責任者會議
- 二〇日：東久留米廃棄物減量審
- 二一日：小平市廃棄物減量審
- 二三日：東村山市リサイクル祭
- 二七日：青年部會計セミナー④
- 二九日：組員視察旅行
- 三一日：古紙Cセミナー

【一一月】

- 六日：エコドリーム・読書選手権（東村山・大岱小）
- 八日：東資協理事會

- 九日：小平三中職場体験学習
- （一一日まで）

（一一日まで）

- 一〇日：レンゴー・鶴見製紙見学
- 一一日：定例理事會
- 一四日：東リ協会・理事會
- ：青年部會議
- ：RC責任者會議
- 一七日：東久留米廃棄物減量審
- 一九日：日資連理事會
- 二一日：広報委員會
- 二二日：札幌市資源R協で講演
- 二四日：古紙C業務委員會
- 二九日：東村山市廃棄物減量審

【一二月】

- 二日：東リ協会視察（千葉県）
- 五日：財務委員會
- ：青年部會議
- 八日：東資協理事會
- 九日：古紙循環プロジェクト
- 一〇日：組合合同忘年会
- 一三日：定例理事會
- 一二日：東リ協会・理事會
- ：古紙流通情報交換會
- 一三日：定例理事會
- 一四日：多摩市議會議建設環境委で抜取問題を説明
- 一五日：東久留米廃棄物減量審
- 一六日：広報委員會
- ：RC責任者會議
- 一七日：エコプロダクツ2005
- 二〇日：古紙C利用促進委員會
- 二一日：小平市廃棄物減量審

編集後記

三〇日：仕事納め

昨年度の古紙輸出は史上最多の三百万トンを超えたはずである。そしてこれからも伸びていくだろう。先号でも書いたが、代金がきちんと振り込まれない、契約した物と違う、水分が多い等の苦情も多くなっている。

日本国内でも同じ事が起きるが、海の向こうでは迅速な対応も出来ない。日本の製紙メーカーに販売している品質と同じ品物を輸出すれば良いのだが、マナーの悪い業者もいる様だ。昨年末に組合と取引のある商社から、鳥インフルエンザ感染源の恐れがある、鶏卵のパックや、鶏肉の入った段ボールなどを、中国に輸出しないように、という連絡があった。これからも何が起るかわからない。注意しなければと思う。

今年も海外では、我々が扱う資源を、どのようにリサイクルしているか、又どんな物が必要なのか、調査していきたい。

まだまだ寒い時期が続くので、風邪などひかれぬよう十分ご自愛下さい。

（吉浦高志）